

みんなで スキを造ろう会

会長
中山 春男さん



島原城から島原湾へ進むと見えてくる横幅270mもの石垣の囲い。ここは潮の干満を利用して行う「スキ漁」といわれる伝統漁法の跡地。魚は満潮時に石積みの中に入り込み、潮が干上がると石垣の内側に残り残されます。干満の差を利用したこの漁は、かつて島原半島などで盛んに行われていました。約300年前には島原半島に158基あったものの、年々数が減少。今はこの1基のみを残すだけとなりました。このスキを守っていきこうと運動をしているのが「みんなでスキを造ろう会」のみなさん。年に2回の清掃活動や、イベントを通してスキを広める活動をしています。

「私が小さい頃、スキは格好の遊び場でした。当時は海水浴場などなく、学校帰りにスキで磯遊びを楽しんだものです。スキが貴重なものだとは知らず、当たり前のご存在として受け取っていましたが、大人になって調べてみると、島原半島に唯一残る貴

自然の大切さを伝えたい
島原半島に唯一残る「スキ」を通して

重な存在ということに気づきました。しかしスキに積まれていた石垣は崩れてゴミも散乱。そこで清掃活動や石垣を再生する運動から始めました」と会長の中山さん。

現在は年に2回の清掃活動、石垣の積み直し作業などを行っています。「スキ漁自体は現在行われていませんが、遊び場としてスキの存在を知ってもらいたい。そこで毎年5月にスキ祭りを開いています。今年の参加者は250人と盛大なものでした。スキの中にイシダイやヒラメなどを放流し、タモですくって遊びます。子ども達も多数参加してくれ、スキを通して自然を大切にすることを学んでくれたと思います。これからもイベントなどを通して、島原の自然や遺産について積極的に伝えていきたい。」と語ります。

